



教育行政の発展を目指して —教育長 玉井氏退任と森氏就任—

任期満了で教育長退任となる玉井幸吉氏の退任式が5月8日(金)、役場にて執り行われ、玉井氏に花束が贈られました。また、5月11日(月)、玉井氏から教育長職を引き継ぐ森順氏に辞令が交付され、新教育長に就任しました。



玉井氏は、平成24年1月1日に教育長に就任以来、3期8年4か月に渡り教育行政に尽力されました。

特に比井小学校と志賀小学校の統合や学童保育の充実に注力。松本町長は「教育行政のトップとして覚悟を持ち、職員とともに頑張ってきたことに敬意を表します」と述べ、玉井氏は「教育課職員だけでなく他の課のバックアップや、地域の方々、学校教職員のご支援とご理解があったからこそ、教育長としての職務を果たすことができました。今後は、一町民として自分が果たせる役割を探していければ」と話していました。

森氏は、和歌山第二工業、御坊商工(現紀央館高校)、田辺工業等での勤務を経て、平成25年4月から定年退職まで南部高校長を務められてきました。

松本町長が「新型コロナウイルスの影響で学校の休業が続いている状況で、まずは子どもたちが元の生活に戻るように対応をお願いしたい」と話し、森氏は「精一杯全力で頑張ります。学校教育や社会教育の連携・融合にも力を入れていきたい」と抱負を述べました。



マスクを全戸配布 —新型コロナ感染予防対策—



5月8日(金)から、各区長さんらの協力のもと、町内の全戸(約3000戸)に1箱50枚入りの不織布マスクが無料配布されました。マスクの入手が難しい状況が続く中、感染予防対策として行われたものです。

同日、松本町長が高家区を訪問し、山崎進区長にマスクが手渡されました。松本町長は、「町民一人ひとりが感染予防対策を徹底することが重要ですので、今回のマスクを役立ててください」とあいさつ。山崎区長は「マスク不足の時期なので助かります。区民も喜んでくれると思います」と受け取りました。

おいしいお米になあれ —比井小・内原小児童らが田植え体験—

6月2日(火)、比井小学校(三原章宏校長)の1、2、5年生の児童ら11名が、西下亨さんの田んぼを借りて、皿山守さん、表具陽一さん、濱口正人さんらの協力のもと、田植えを体験しました。

皿山さんから苗の植え方を教わると、児童らははだしで田んぼへ。「冷たい」「気持ちいい」とはしゃぎながらも、皆で協力して2アールの田んぼにキヌヒカリの苗を丁寧に植えました。今回植えた苗は、9月頃に稲刈り体験も行う予定で、皿山さんは「きれいに植えてくれてありがとう。稲は成長が早く、1日で大きくなります。時々様子を見に来て観察してみてください」と児童らに話していました。

内原小学校(川端浩次校長)でも、6月9日(火)に5年生55名が田植えを体験。酒井精さんの田んぼを借りて、酒井利夫さん、山崎進さんら地元農家の皆さんの協力のもと、約3アールの田んぼにもち米の苗を植えました。内原小も、9月下旬から10月上旬頃に稲刈り体験を予定しているそうです。

